

平成28年度江南区未来づくりプロジェクト支援業務委託 ～概要版～

1. 目的

江南区の人口は、平成22年度国勢調査推計によると、平成27年度の調査段階では人口が増えるものと予想された。しかし平成27年度国勢調査の結果では人口が予想に反し減じていたため、江南区では人口の減少となった要因など過去の統計データ等を活用して分析することで、課題等の把握を行うこととした。

本業務の目的は、過去に本市などが行った統計データやアンケート結果などから、江南区が指示する必要なデータを整理・分析し、江南区の分析を補足するほか報告書およびその概要版について作成するものである。

2. 江南区の現状

江南区の現状について、都市計画や農業振興区域、交通のアクセス等の現状の整理を行う。

(1) 都市計画の状況

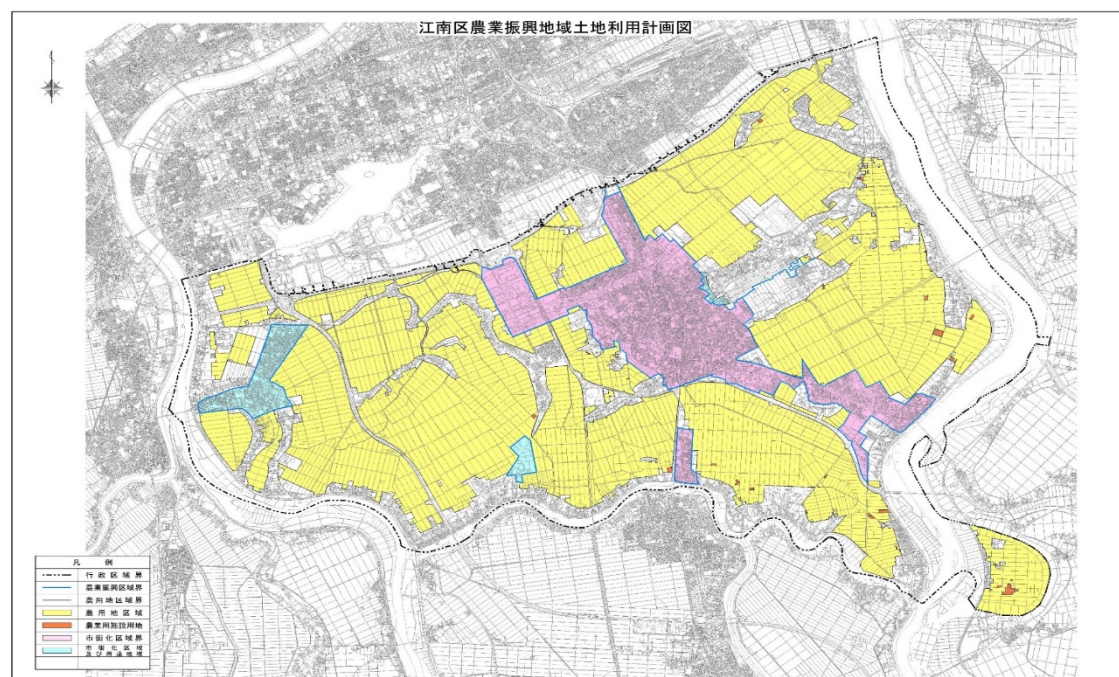
日本海東北自動車道の新潟亀田インターチェンジを起点に、国際拠点港湾である新潟西港や新潟駅・万代シティ・古町など中央区中心部との間の拠点相互間を連結することを目的とした、延長8kmの区間が地域高規格道路、新潟南北道路として計画路線に指定されている。

(2) 農振農用地の状況

江南区における農業振興地域の整備計画は、横越、亀田の2地区で土地利用の基本的な方向として、地区内農用地の8割以上を占める水田の整備、開発等を軸として進められている。

土地利用面積の状況及び区分

区分	農用地		農業用施設用地		山林・原野		宅地		工業用地		その他		計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率
亀田	899.0	78.4	0.4	0.0	0.0	0.0	74.2	6.5	0.0	0.0	173.8	15.1	1,147.4	100.0
横越	1,228.1	55.4	2.7	0.1	5.0	0.2	139.2	6.3	0.7	0.0	840.6	37.9	2,216.3	100.0
計	2,127.1	63.2	3.1	0.1	5.0	0.1	213.4	6.3	0.7	0.0	1,014.4	30.2	3,363.7	100.0



(3) 交通アクセスの状況

移動環境として、道路は区内の南北を縦断する国道49号、県道1号（新潟小須戸三条線）県道4号線（新潟港横越線）が都心方向へのアクセスを担い、主に県道16号（新潟亀田内野線）が東西のアクセスを担っている。

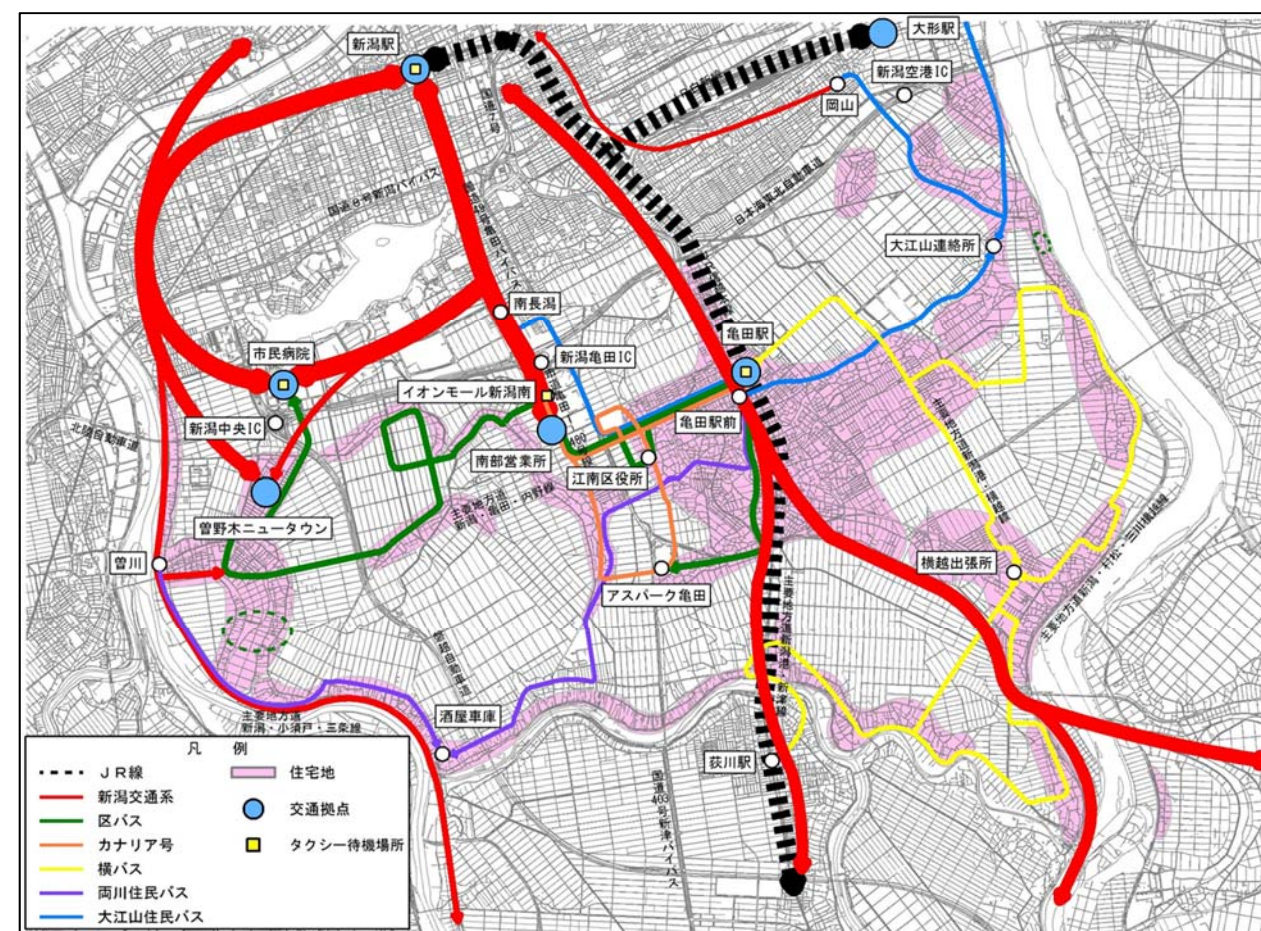
高速道路は、日本海東北自動車道、磐越自動車道及び北陸自動車道が東西方向と南北方向に貫いており、新潟中央ICと新潟空港ICが区内にある。

公共交通は、JR信越本線が区を縦断しており、路線バスは都心から亀田地区を経由し横越地区・新津方面を結ぶ路線のほか、曾野木・両川地区や早通地区から都心方面へ直接アクセスする路線が配置されている。

区内の移動手段は区バスや住民バスが担っており、区内各地区から交通拠点や交通施設、商業施設を結んでいる。

また、区内にはタクシー事業者が2社あり、約80台の保有台数があるほか、亀田駅や大型ショッピングセンターでは常時タクシーが待機し、利用者の細やかなニーズに対応している。

江南区の公共交通



3. 江南区の土地利用の状況

(1) 面積と土地利用状況

区域の約半分を田や畑の農地を占め、宅地としての利用は約15%となり、緑豊かに広がる田園などの自然環境との共生を図っている。

江南区的面積及び土地利用状況

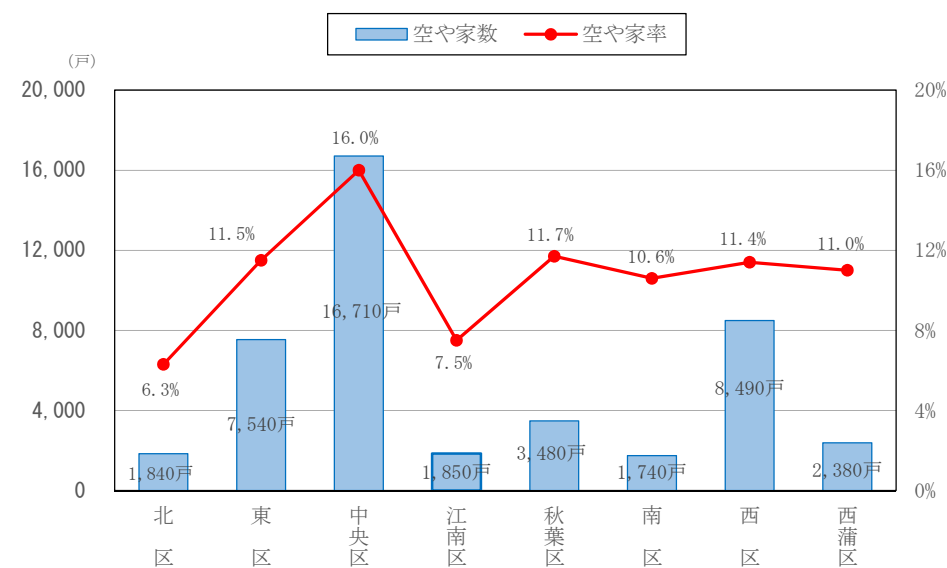
地目分類	面積(ha)	割合(%)
田	3,287	43.6
畑	589	7.8
宅地	1,132	15.0
雑種地ほか	116	1.5
その他(道路、公共施設、水面など)	2,422	32.1
合計	7,546	100.0

(2) 空き家の現状

平成25年の住宅・土地統計調査によると、新潟市の空き家戸数は約44,000戸、空き家率は12.0パーセントとなっている。

このうち二次的・売買用・賃貸用の住宅以外の「その他の住宅」が増加しており、区別でみると江南区の空き家率は北区についで低くなっている。

新潟市の区別空き家数



4. 江南区の人口状況

(1) 人口の推移

平成17年に戦後初めて日本の総人口が減少を迎えた中で、新潟市の人口は増加し続けてきたが、平成22年国勢調査では僅かに減少に転じている。

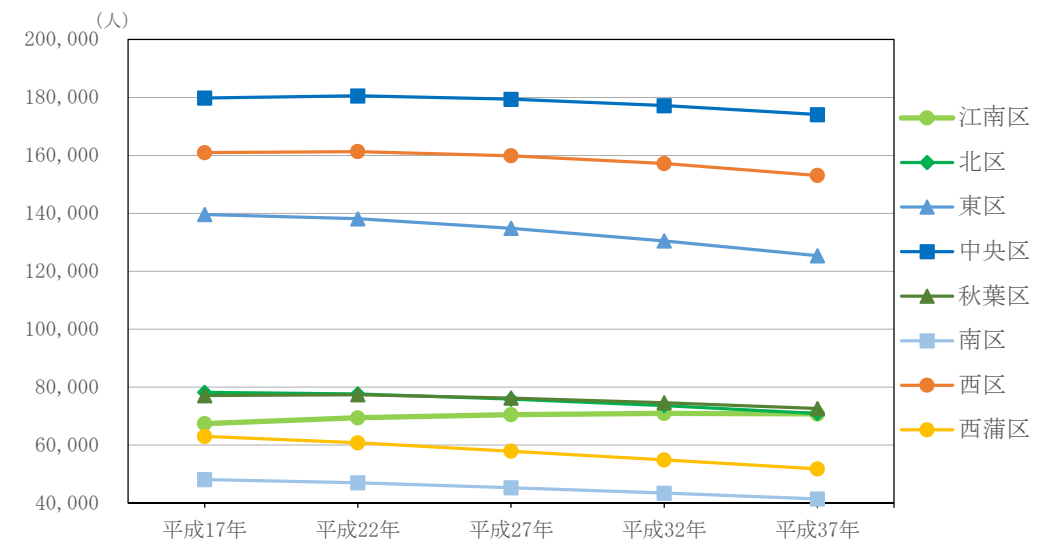
江南区の人口等の状況は図のとおりである。

区別で比較してみると、江南区は高齢化率では低位にあるものの、平成37年には区民の30%に達すると推計さら、超高齢化社会への対応が一層必要となることが予想される。

一方、子ども(0~14歳)の割合は新潟市全体では一番高く、これは江南区が旧新潟市中心部に近く、宅地化が進んだことで、若い世代の居住が増えたことが原因と考えられる。

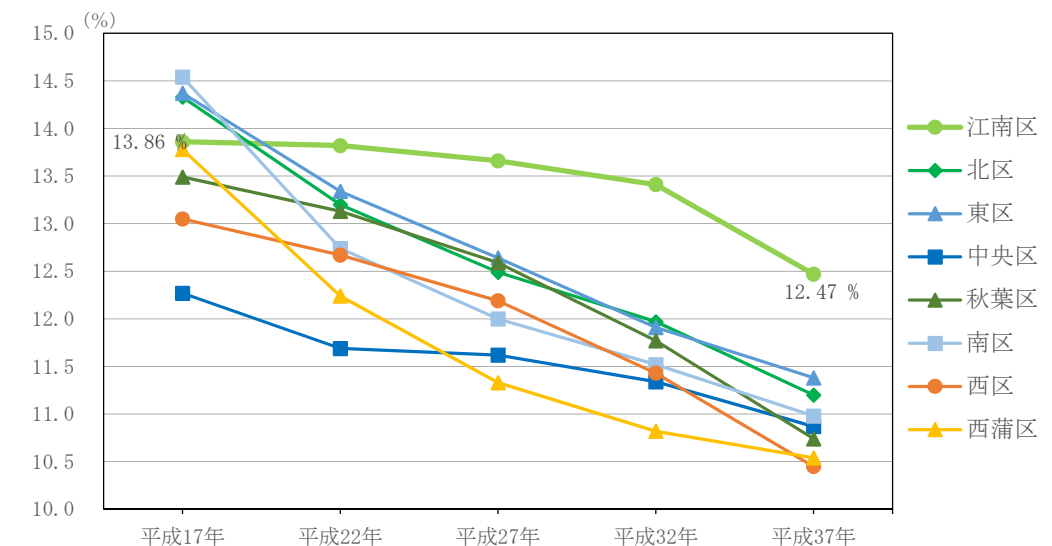
将来推計人口についても、平成22年と平成37年を比べると、市内8区の中で、江南区だけが増加すると推測されている。

新潟市の区別将来推計人口



(平成22年国勢調査結果を基準にコーホート要因法により推計)

新潟市の区別年少人口割合と将来推計



(平成22年国勢調査結果を基準にコーホート要因法により推計)

5. 江南区における企業の立地状況

(1) 製造業における事業所の所在地の状況

新潟市の製造業における事業所の所在地は、「東区」が266件(17.8%)、「西蒲区」が242件(16.2%)、「中央区」が228件(15.3%)の順であり、「江南区」は147(9.9%)で市内8区中6番目に当る件数となっている。

江南区の事業所を業種別にみると、「食料品」30件(20.4%)、「出版・印刷・同関連産業」18件(12.24%)、「木材・木製品」12件(8.16%)の順となっている。

新潟市区別事業所所在地(産業分類別)

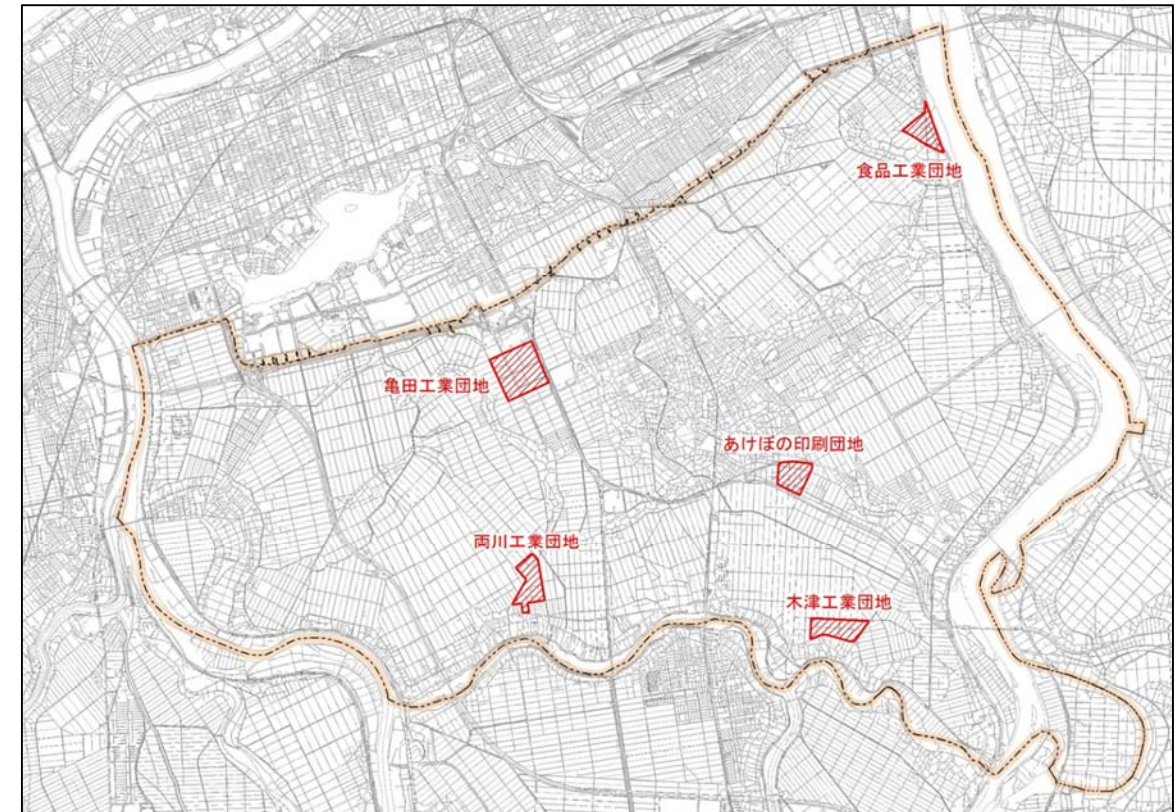
	全体	所在地(区)								
		江南区	北区	東区	中央区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	
合計	1,077	121	170	207	132	90	130	79	148	
	100.0	11.2	15.8	19.2	12.3	8.4	12.1	7.3	13.7	
食料品	218	30	35	33	38	15	22	27	18	
	100.0	13.8	16.1	15.1	17.4	6.9	10.1	12.4	8.3	
飲料・たばこ・飼料	20	1	3	0	3	1	0	4	8	
	100.0	5.0	15.0	0.0	15.0	5.0	0.0	20.0	40.0	
繊維工業	38	3	3	4	7	7	6	4	4	
	100.0	7.9	7.9	10.5	18.4	18.4	15.8	10.5	10.5	
木材・木製品	23	1	1	10	0	3	1	2	5	
	100.0	4.3	4.3	43.5	0.0	13.0	4.3	8.7	21.7	
家具・装備品	41	6	3	10	4	3	6	5	4	
	100.0	14.6	7.3	24.4	9.8	7.3	14.6	12.2	9.8	
パルプ・紙	21	2	3	7	1	1	4	1	2	
	100.0	9.5	14.3	33.3	4.8	4.8	19.0	4.8	9.5	
印刷・同関連業	87	13	5	14	31	5	5	7	7	
	100.0	14.9	5.7	16.1	35.6	5.7	5.7	8.0	8.0	
化学工業	19	2	9	3	1	2	0	2	0	
	100.0	10.5	47.4	15.8	5.3	10.5	0.0	10.5	0.0	
石油・石炭製品	7	0	2	1	0	2	1	1	0	
	100.0	0.0	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	
プラスチック製品	33	7	2	4	1	1	12	1	5	
	100.0	21.2	6.1	12.1	3.0	3.0	36.4	3.0	15.2	
ゴム製品	7	1	4	2	0	0	0	0	0	
	100.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
皮革製品	2	0	0	1	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
窯業・土石製品	44	1	7	11	1	9	5	4	6	
	100.0	2.3	15.9	25.0	2.3	20.5	11.4	9.1	13.6	
鉄鋼	24	2	2	4	1	3	9	0	3	
	100.0	8.3	8.3	16.7	4.2	12.5	37.5	0.0	12.5	
非鉄金属	5	0	2	0	0	0	1	1	1	
	100.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	
金属製品	169	16	26	39	10	5	21	6	46	
	100.0	9.5	15.4	23.1	5.9	3.0	12.4	3.6	27.2	
はん用機械器具	35	7	11	7	5	0	1	0	4	
	100.0	20.0	31.4	20.0	14.3	0.0	2.9	0.0	11.4	
生産用機械	94	17	23	19	0	11	8	5	11	
	100.0	18.1	24.5	20.2	0.0	11.7	8.5	5.3	11.7	
業務用機械	15	0	1	1	3	2	4	1	3	
	100.0	0.0	6.7	6.7	20.0	13.3	26.7	6.7	20.0	
電子部品・デバイス	28	2	3	2	0	7	6	1	7	
	100.0	7.1	10.7	7.1	0.0	25.0	21.4	3.6	25.0	
電気機械	39	1	5	10	7	4	6	2	4	
	100.0	2.6	12.8	25.6	17.9	10.3	15.4	5.1	10.3	
情報通信機械	5	0	2	0	2	0	0	0	1	
	100.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
輸送用機械	60	7	11	18	6	3	8	1	6	
	100.0	11.7	18.3	30.0	10.0	5.0	13.3	1.7	10.0	
その他	43	2	7	7	11	6	4	3	3	
	100.0	4.7	16.3	16.3	25.6	14.0	9.3	7.0	7.0	

(資料:平成24年の新潟市製造業実態調査報告書)

(2) 工業団地の立地状況

江南区における工業団地は、亀田工業団地、木津工業団地、両川工業団地、あけぼの印刷団地、食品工業団地が立地されており、特に食品出荷額は市内でも群を抜いている。

工業団地位置図

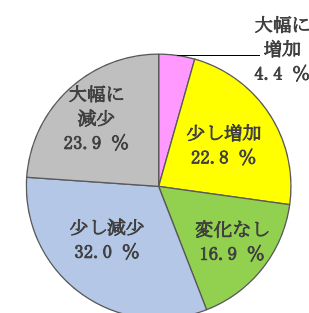


(3) 新潟市企業(製造業)の景況感

平成24年の新潟市製造業実態調査報告書によると、業績動向(売上高の変化)は、最新期決算と前々期決算を比較した場合、「少し減少」が32.0%と最も多く、「大幅に減少」が23.9%で続き、厳しい経営環境が続いたことがうかがえる。

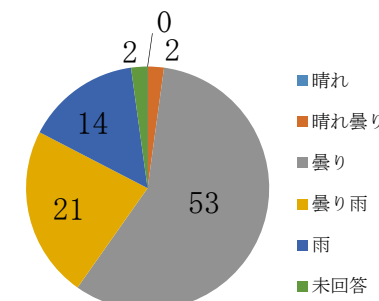
江南区においても平成28年に企業アンケート調査(全体集計92社)を行ったが、景気の優劣を感じる企業は全市同様、厳しい状況となっている。また、10年以内に事業の拡大や事業所の建て替えを考えている企業は26社あるが、用地を取得するうえでの課題もいくつかある状況である。

【新潟市の業績動向】

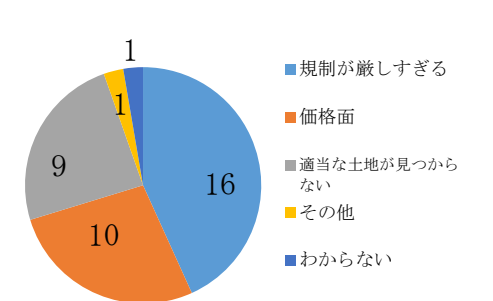


【江南区企業アンケート調査】

最近1年間の新潟市の景況感



江南区で用地取得するうえでの課題



6. 江南区の現状での優位性と課題

(1) 江南区の現状での優位性

1) 交通アクセス

新潟亀田IC、中央IC、新潟東スマートIC(平成28年3月26日開通)により首都圏へ高速道路が直結しており、市内中心部から大きな道路が江南区の各地区へ結ばれて、利便性が高い状況に整備されている。

また、JR亀田駅は新潟駅まで約10分、運行本数59本、毎日5400人あまりの乗降客があり、JR亀田駅を中心とした区バスが運行し利用者の利便を図っている。

2) 商業施設

亀田地区に新潟県下での延床面積(41,669 m²)第1位を誇るイオン新潟南店及び、延床面積(37,462 m²)第2位のアピタ新潟亀田店が出店している他、横越地区にSUPER CENTER PLANT-5 横越店(延床面積 18,293 m²)も出店している。

また、その他、大型ホームセンター、スポーツ店、電機店が多数出店している。

3) 工業団地

亀田工業団地、木津工業団地、両川工業団地、あけぼの印刷団地、食品工業団地があり、特に食料品出荷額は市内でも群を抜いている。

4) 文化施設

芸術・文化・歴史及び各種学習機能の中核を担う江南区文化会館、江南区全域の郷土資料を展示・収蔵されている江南区郷土資料館等の施設が充実している。

5) 子育て支援

江南区は子育て支援にも力を入れており、特に、初めて赤ちゃんを出産したお母さんへの支援プログラムを新しく始めるとともに、参加できない方への個別訪問などを行い、子育てに対して、良い影響を与えることが期待されている。

(2) 江南区の現状での課題

1) 市民の求める住宅地用地及び事業用地が不足

新潟県不動産鑑定協同組合が平成28年3月に発行した「これからの江南区を考える」において不動産鑑定士の所見で、住宅地では JR 亀田駅から中央卸売市場までのエリアや、イオンモール新潟南店から国道49号亀田バイパスを介して東側のエリア等、工業地では新潟亀田 IC 周辺や、新潟東スマート IC から中央卸売市場までのエリア等が開発適地として考えられているが、いずれも市街化調整区域であるため、需要があっても供給ができない状況となっている。

また、江南区企業アンケート調査においても、用地を取得するうえでの規制が厳しすぎるという回答が多くあることから、今後、雇用創出機会の損失及び事業所の区外への流出が懸念される。

このようなことから、今後の取り組みとして区内の宅地、事業地としてニーズの高い地域の市街化区域を拡大することや規制緩和等、市街化調整区域を容易に開発できる環境整備が必要とされる。

2) 子育てがよりしやすい環境づくりが必要

区役所や文化施設、公園等居住環境が良好で、子育てに適した住宅予定地がことごとく市街化調整区域に属しており、新潟市立地適正化計画の動きと逆行している状況となっていることから、安心して子育てができるような環境整備が必要とされる。

3) 江南区の強みが活かしきれていない

JR亀田駅徒歩圏内が市街化調整区域で、住宅地等の規制がかかっているため、交通アクセス、商業施設等の利便性が活かされていないため、効率的な土地利用を進める必要がある。